

家 庭 ご み 排 出 実 態 調 査

報 告 書

令和元年 1 2 月

東 京 都 北 区

《 目 次 》

第1章 調査概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
(1) 分析対象物	1
(2) 調査対象地域	1
(3) 調査規模ならびにサンプル数	1
(4) 調査日程	2
(5) 分析場所	2
(6) 調査方法	3
第2章 調査結果	5
1 ヒアリング調査結果	5
(1) 世帯人数分布	5
(2) 蓄積日数分布	6
2 分析結果	7
(1) 排出原単位	7
(2) 排出原単位の分布	10
(3) 分類項目ごとの排出原単位	12
第3章 資源化可能物等の解析	14
1 可燃ごみの解析	14
2 不燃ごみの解析	16
第4章 可燃ごみの厨芥類組成の解析	18
1 可燃ごみの厨芥類組成の解析	18
第5章 前回までの調査との比較	19
1 ヒアリング調査結果	19
(1) 世帯人数分布	19
(2) 蓄積日数分布	20
2 分析結果	21
(1) 世帯人数ごとの排出原単位	21
(2) クラスターごとの排出原単位	22
(3) 排出原単位の分布（可燃ごみ）	23
(4) 排出原単位の分布（不燃ごみ）	24
(5) 大分類項目における排出原単位	25
(6) 細分類項目における排出原単位	26
(7) 分別不適正率及び資源化可能率	30

第 1 章 調査概要

1 調査の目的

本調査は、家庭から排出される可燃ごみ及び不燃ごみの排出原単位や組成割合の変化等を調査、解析することにより、「北区一般廃棄物処理基本計画 2020」の策定に向けた基礎データを得ることを目的として実施した。

2 調査の概要

(1) 分析対象物

分析対象物は各家庭から集積所へ排出される家庭ごみとし、そのうち可燃ごみ及び不燃ごみとした。

(2) 調査対象地域

対象地域のクラスターごとの調査対象町丁目とその特徴を表 1-1 に示す。なおクラスター④は、前回までの調査における対象地域の住民が減少しているため、対象地域を新たに選定した。その他の対象地域は前回までの調査と同様である。

表 1-1 調査対象地域

	調査対象町丁目	特徴
クラスター①	赤羽西3丁目	一戸建て住宅、長屋建て住宅、民営借家居住世帯が多い地域
クラスター②	王子2丁目	共同住宅世帯、公営住宅住居世帯数が多い地域
クラスター③	神谷3丁目	世帯人員が多く、子供のいる世帯が多い地域
クラスター④	赤羽西5丁目	人口密度が高く、世帯人員が多く、公営住宅住居世帯、共同住宅世帯が多い地域

(3) 調査規模ならびにサンプル数

調査規模は可燃ごみ 100 世帯、不燃ごみ 100 世帯とした。

クラスターごとの調査サンプル数は、クラスターごとの世帯数に応じて設定した（表 1-2）。

表 1-2 調査サンプル数

	区全体		調査 サンプル数
	世帯数	割合	
クラスター①	78,190	40%	40
クラスター②	57,794	30%	30
クラスター③	34,373	18%	20
クラスター④	22,863	12%	10

(4) 調査日程

調査は表 1-3 に示す日程で実施した。

表 1-3 調査日程

	可燃ごみ	不燃ごみ
令和元年6月10日 (月)	赤羽西3丁目 赤羽西5丁目	—
令和元年6月12日 (水)	王子2丁目	
令和元年6月14日 (金)	神谷3丁目	赤羽西5丁目
令和元年6月21日 (金)	—	赤羽西3丁目
令和元年6月24日 (月)	—	王子2丁目
令和元年6月26日 (水)	—	神谷3丁目

(5) 分析場所

分析作業は北清掃工場プラットホーム（下図枠線部分）にて実施した。



(6) 調査方法

① 集積所ヒアリング調査

調査対象集積所に調査員が待機し、ごみを排出してきた世帯人に対して調査実施の旨を説明した。その後、調査協力を得られた世帯人に対し、①世帯人数、②ごみの蓄積日数の2項目のヒアリング調査を実施した。なお、得られたサンプルにはロット番号をふり、集積所のわきに置いて確保した。

② 排出原単位調査

必要量が確保出来た後、サンプルを回収し、分析場所（北清掃工場）へ搬入した。搬入後、サンプルをビニールシートの上に一時保管し、ロット番号ごとに表1-4に示す分類調査項目ごとに重量を測定した。

③ ごみの廃棄

調査終了後のごみは、可燃ごみは北清掃工場にてごみピットへ投入し、不燃ごみは北区清掃事務所へ搬入した。

④ データの集計・解析

得られた調査データを集計し、家庭ごみ排出原単位を解析した。

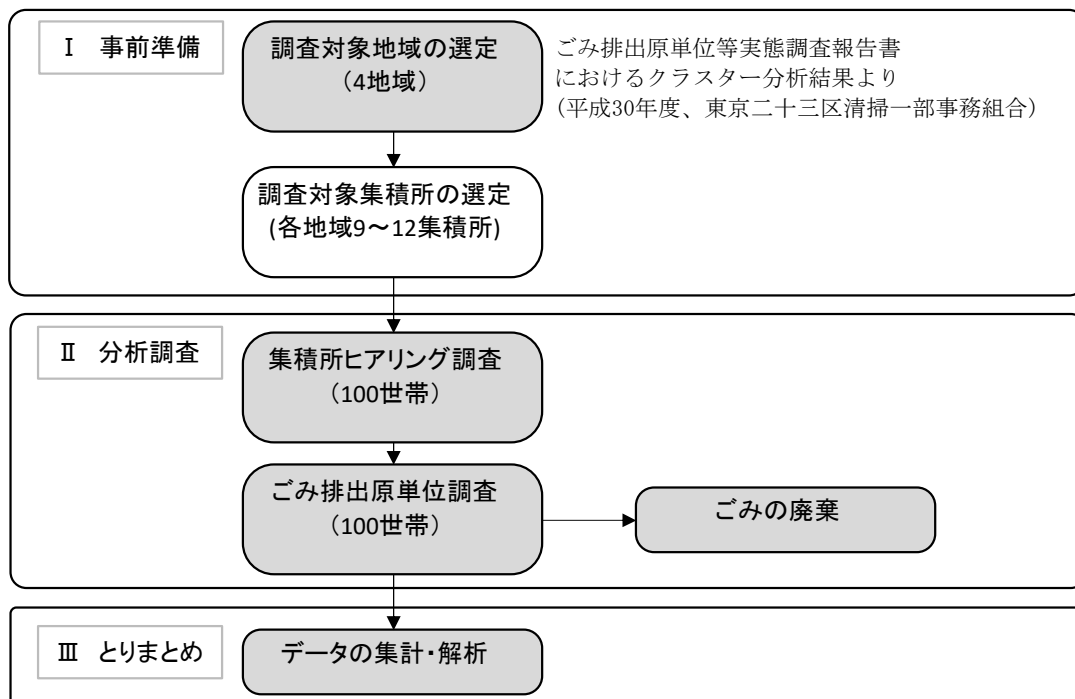


図1-1 調査フロー

表 1-4 分析調査項目

分 類 項 目				No.	代表品目
種別	大分類	中分類	細分類		
可燃物	厨芥類		調理くず	1	調理した際に出る生ごみなど
			直接廃棄(100%残存)	2	購入後全く手がつけられずに捨てられたもので、(100%残存)未開封の食品、売られていた状態で排出された野菜・果物など
			直接廃棄(50%以上残存)	3	購入後ほとんど手がつけられずに捨てられたもので概ね50%以上の原形を残すもの
			直接廃棄(50%未満残存)	4	購入後一定程度手がつけられて捨てられたもので概ね50%未満の原形を残すもの
			食べ残し	5	残飯
			その他	6	お茶やコーヒーなどの出がらし、厨芥類を包んでいた新聞紙など
	紙類	容器包装	段ボール	7	ボール紙製の緩衝芯のあるもの表面に銀紙などリサイクル出来ないものが貼っていないもの
			資源紙パック	8	牛乳、ジュースなど内側に銀紙が貼っていないもの、茶色も×
			その他紙容器(リサイクル可)(雑がみ含む)	9	たばこ、お菓子などの空き箱
			その他紙容器(リサイクル不可)	10	内側に銀紙が貼ってあるもの(アルミ蒸着紙パック)、カップ麺(紙製)
			その他紙包装	11	紙袋、包装紙など
		容器包装以外	新聞紙・ちらし	12	新聞および一緒に入っていたちらし(投函ちらしを除く)
			雑誌・書籍	13	雑誌、書籍、ノート、カタログ、パンフレットなど
			OA用紙	14	コピー用紙、図面
			その他紙類(リサイクル可)(雑がみ含む)	15	ダイレクトメール、はがき、投函ちらし、封筒(窓なし)トイレットペーパーの芯など
			その他紙類(リサイクル不可)	16	汚れた紙、ティッシュペーパー、ビニールコート紙、封筒(窓付き)、写真印画紙、レシートなど
	草木類			17	花木、剪定枝、割り箸、木箱、麻ひも、コルクなど(土の付いた植木を除く)
	繊維類			18	衣類、毛布、布切れなど
	紙おむつ類			19	紙おむつ、生理用品、ペット用トイレシートなど
	プラスチック類	容器包装	ペットボトル	20	飲料、酒、リサイクルマークの付いているボトル状のもの
			その他のボトル	21	ポンプ式シャンプーなどプラ製のボトル容器、ブロー成型品(中空のもの)
			チューブ類	22	歯磨き粉、マヨネーズなどの容器
			資源発泡トレイ	23	白色トレイ
			その他の発泡トレイ	24	色、柄付きトレイ
			その他プラ容器	25	納豆容器、カップ麺(プラ製)、玉子パック、惣菜のプラ容器、ヨーグルト、プリン、ペットボトルの蓋など
			その他プラ包装	26	ラップ、フィルム、ビニール製のお菓子の空き袋、たばこのビニール包みなど
			レジ袋(ごみとして出された袋)	27	ごみ袋として使用されていないレジ袋
		容器包装以外	シングルユースプラスチック	28	使い捨てのストロー、スプーン、フォーク、コップ
			その他	29	CDケース、歯ブラシなど
ゴム・皮革類			30	皮革製品、くつ、ベルト、かばんなど	
その他可燃物			31	猫砂(紙製)、紙粘土など、たばこの吸殻、乾燥剤、保冷剤	
不燃物	陶磁器・石類			32	せともの製食器など
	金属類	容器包装	アルミ缶	33	飲食料缶
			スチール缶	34	飲食料缶、お菓子やのり、お茶などのスチール製容器
			その他容器類	35	ジャムなどのビン製容器の蓋、スプレー・塗料缶(中身無)
		容器包装以外	その他金属(リサイクル可)	36	なべ、やかん、針金ハンガー、配線類など
			その他金属(リサイクル不可)	37	はさみや包丁などの刃物類、アルミホイル
			小型家電	38	ドライヤー、デジタルカメラなどの小型家電
	びん・ガラス	容器包装	生きびん	39	リユースびん(ビール瓶、一升瓶)
			無色雑びん	40	無色透明で曇りの無いもの
			茶色雑びん	41	栄養補給ドリンクなどのびん
			その他色雑びん	42	上記以外のびん
			資源回収不適な雑びん	43	化粧品、薬品のびん、油などが入っていて汚れているびん
		容器包装以外	44	ガラスコップ、耐熱ガラス、板ガラスなど	
	土砂・残土・灰			45	鉢植え、レンガ、ブロックなど
	蛍光管			46	
	乾電池・マンガン電池・ボタン電池			47	
	体温計(電子体温計を除く)・温度計			48	
	その他不燃物			49	携帯カイロ
外袋	ごみ袋	容器包装	レジ袋	50	ごみ袋として使用されたレジ袋
		容器包装以外	プラスチック袋	51	23区推奨、透明や半透明のごみ袋

第2章 調査結果

1 ヒアリング調査結果

(1) 世帯人数分布

集積所でのヒアリング調査より得たクラスターごとの世帯人数分布を表2-1及び図2-1に示す。

可燃ごみは、合計では1人世帯と2人世帯の合計で6割を占めている。クラスター毎に見ると、クラスター①及びクラスター③は1人世帯が多く、クラスター④は複数人世帯が多い。

不燃ごみは、合計では2人世帯と3人世帯の合計で7割を占めている。すべてのクラスターにおいて、2人世帯が最も多く、4人以上世帯が最も少ない。

表2-1 世帯人数別サンプル数

可燃ごみ						不燃ごみ					
世帯人数	クラスター①	クラスター②	クラスター③	クラスター④	合計	世帯人数	クラスター①	クラスター②	クラスター③	クラスター④	合計
1人	15	3	9	6	33	1人	7	2	4	6	19
2人	12	5	5	7	29	2人	16	6	9	11	42
3人	9	2	5	12	28	3人	13	2	6	8	29
4人以上	4	0	1	5	10	4人以上	4	0	1	5	10
合計	40	10	20	30	100	合計	40	10	20	30	100

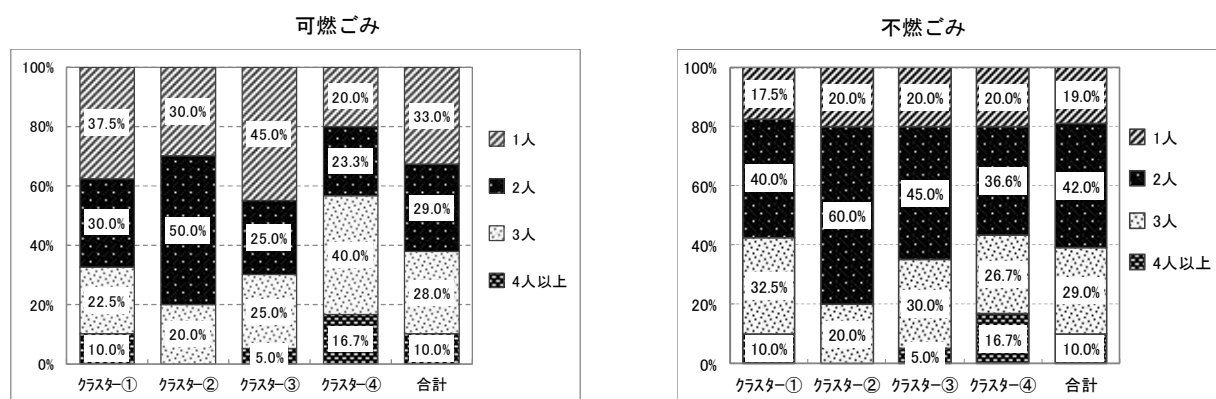


図2-1 世帯人数別サンプル数の割合

（２）蓄積日数分布

蓄積日数は直近にごみを出した日をヒアリングすることで求めた。ヒアリングにより得られた蓄積日数を表 2-2 及び図 2-2 に示す。

可燃ごみは全体の 99%が 1 回前の回収日（蓄積日数 3～4 日、収集曜日により異なる）に、残りの 1%が 2 回前の回収日（蓄積日数 7 日）に出したと回答があった。蓄積日数 7 日と回答したのは、全クラスターの中でクラスター③の 1 世帯のみであった。

不燃ごみでは 65%が 1 回前の回収日（蓄積日数 2～3 週間、収集日により異なる）に、22%が 2 回前の回収日（蓄積日数 4～5 週間、収集日により異なる）に、残りの 13%がそれ以前の回収日に出したと回答があった。

表 2-2 蓄積日数分布

可燃ごみ						不燃ごみ					
蓄積日数	クラスター①	クラスター②	クラスター③	クラスター④	合計	蓄積日数	クラスター①	クラスター②	クラスター③	クラスター④	合計
3～4 日	40	10	19	30	99	2～3 週間	23	4	16	22	65
7 日	0	0	1	0	1	4～5 週間	7	5	3	7	22
それ以上	0	0	0	0	0	それ以上	10	1	1	1	13
合計	40	10	20	30	100	合計	40	10	20	30	100

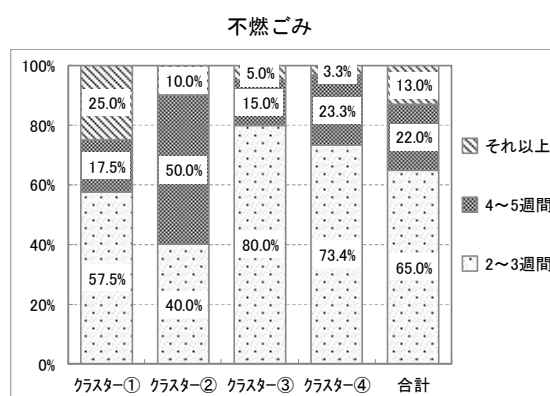
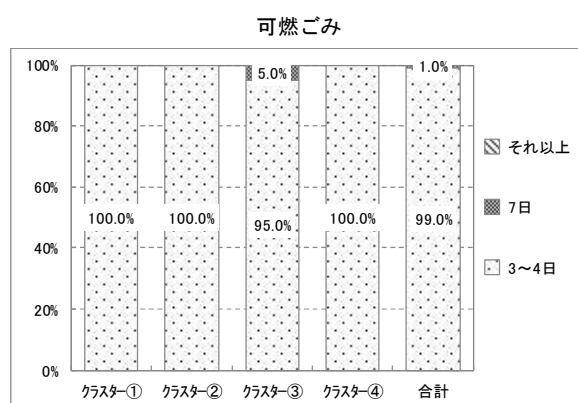


図 2-2 蓄積日数分布

2 分析結果

(1) 排出原単位

① 全体の排出原単位

有効な調査サンプル数は可燃ごみ、不燃ごみそれぞれ 100 世帯とし、データの集計・解析を実施した。

可燃ごみ及び不燃ごみの排出原単位結果を表 2-3 及び図 2-3 に示す。可燃ごみは 242.1g/人日、不燃ごみは 13.9g/人日であった。

H29 調査と比較すると、可燃ごみは 9.2g/人日増、不燃ごみは 12.7g/人日減であり、合計で 3.5g/人日の減となった。

表 2-3 排出原単位

単位：g/人日			
	H27調査	H29調査	本調査
可燃ごみ	257.8	232.9	242.1
不燃ごみ	29.4	26.6	13.9
合計	287.2	259.5	256.0

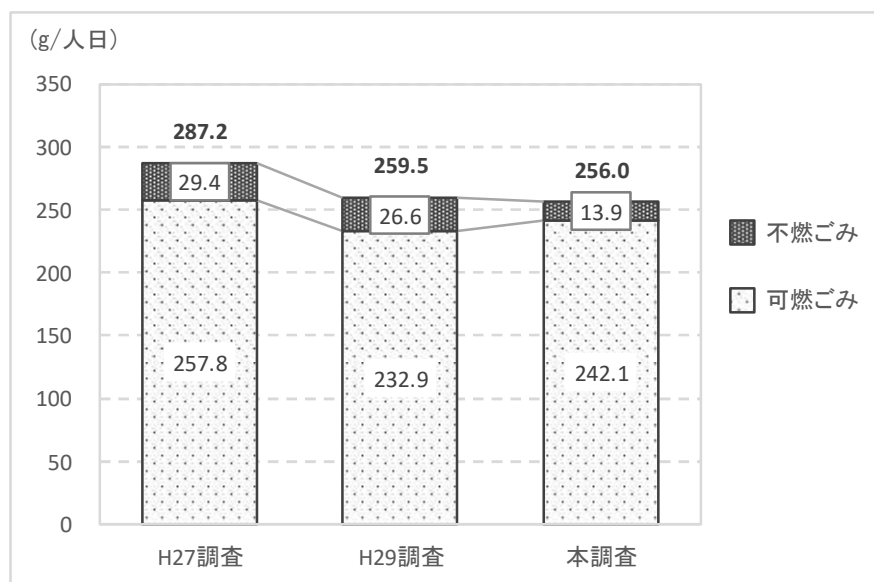


図 2-3 排出原単位

② 世帯人数ごとの排出原単位

世帯人数ごとの排出原単位を表 2-4 及び図 2-4 に示す。

可燃ごみと不燃ごみの合計は、2人世帯の排出原単位が最も大きく、4人世帯が最も小さい結果となった。可燃ごみ、不燃ごみ共に同様の傾向があったが、不燃ごみは一人世帯が最も小さかった。

表 2-4 世帯人数ごとの排出原単位

単位：g/人日

	1人世帯	2人世帯	3人世帯	4人以上世帯	合計
可燃ごみ	286.8	304.1	290.7	148.7	242.1
不燃ごみ	11.6	16.7	12.8	11.9	13.9
合計	298.4	320.8	303.5	160.6	256.0

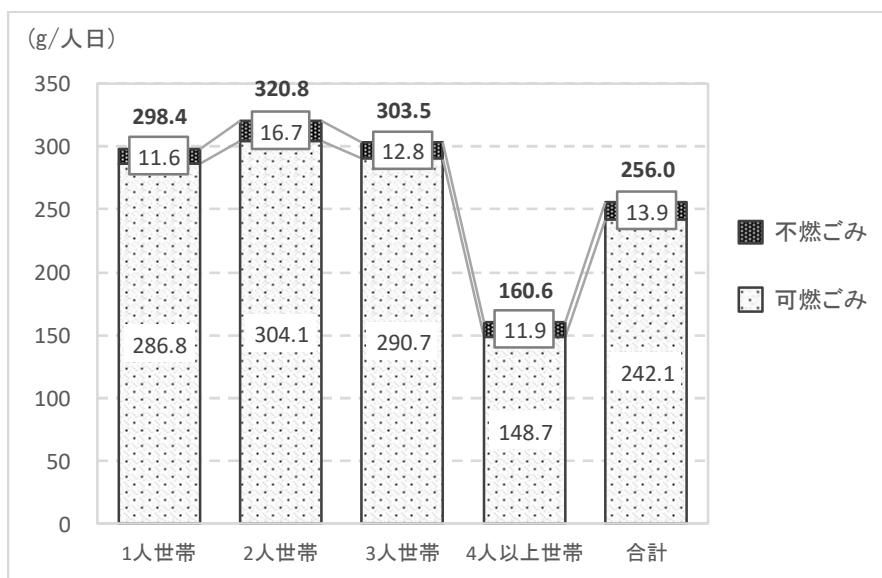


図 2-4 世帯人数ごとの排出原単位

③ クラスターごとの排出原単位

クラスターごとの排出原単位を表2-5及び図2-5に示す。

可燃ごみと不燃ごみの合計は、クラスター②の排出原単位が最も大きく、クラスター④が最も小さい結果となった。可燃ごみ、不燃ごみ共に同様の傾向があった。

表2-5 クラスターごとの排出原単位

単位：g/人日

	クラスター①	クラスター②	クラスター③	クラスター④	合計
可燃ごみ	308.3	351.3	241.1	144.9	242.1
不燃ごみ	13.5	19.2	14.6	12.3	13.9
合計	321.8	370.5	255.7	157.2	256.0

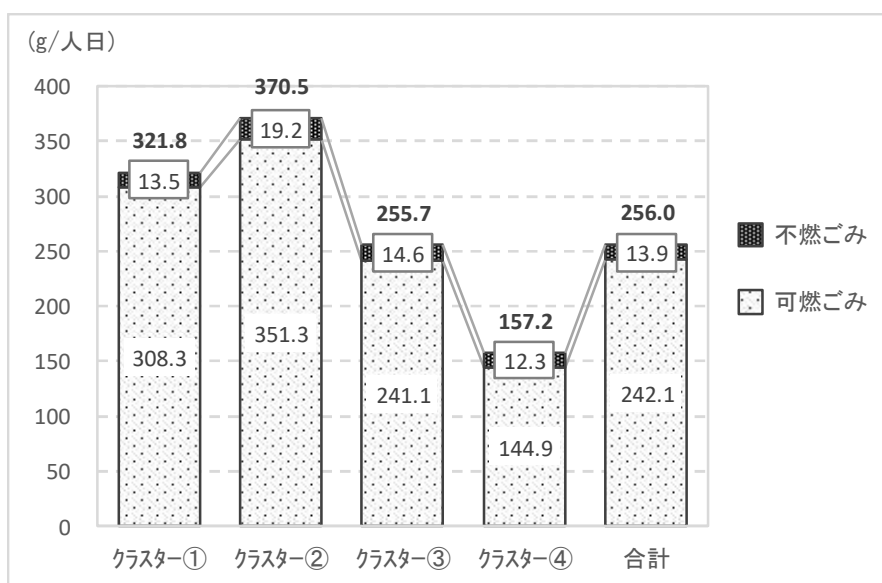


図2-5 クラスターごとの排出原単位

（２）排出原単位の分布

① 可燃ごみ

可燃ごみの排出原単位の分布を表２-６及び図２-６に示す。

100 g /人日以上 150 g /人日未満と 200 g /人日以上 250 g /人日未満の排出原単位が共に15%で最も多かった。また、250 g /人日未満の件数が全体の約 60.0%を占めていた。前回調査で２件あった 900 g /人日以上の多量排出世帯は、今回の調査では見られなかった。

表２-６ 排出原単位の分布（可燃ごみ）

原単位(g/人日)	件数	割合	累計件数(件)	累計
0 ～ 50	3	3.0%	3	3.0%
50 ～ 100	13	13.0%	16	16.0%
100 ～ 150	15	15.0%	31	31.0%
150 ～ 200	14	14.0%	45	45.0%
200 ～ 250	15	15.0%	60	60.0%
250 ～ 300	9	9.0%	69	69.0%
300 ～ 350	5	5.0%	74	74.0%
350 ～ 400	8	8.0%	82	82.0%
400 ～ 450	3	3.0%	85	85.0%
450 ～ 500	4	4.0%	89	89.0%
500 ～ 550	3	3.0%	92	92.0%
550 ～ 600	3	3.0%	95	95.0%
600 ～ 650	1	1.0%	96	96.0%
650 ～ 700	1	1.0%	97	97.0%
700 ～ 750	1	1.0%	98	98.0%
750 ～ 800	1	1.0%	99	99.0%
800 ～ 850	0	0.0%	99	99.0%
850 ～ 900	1	1.0%	100	100.0%
900 以上	0	0.0%	100	100.0%

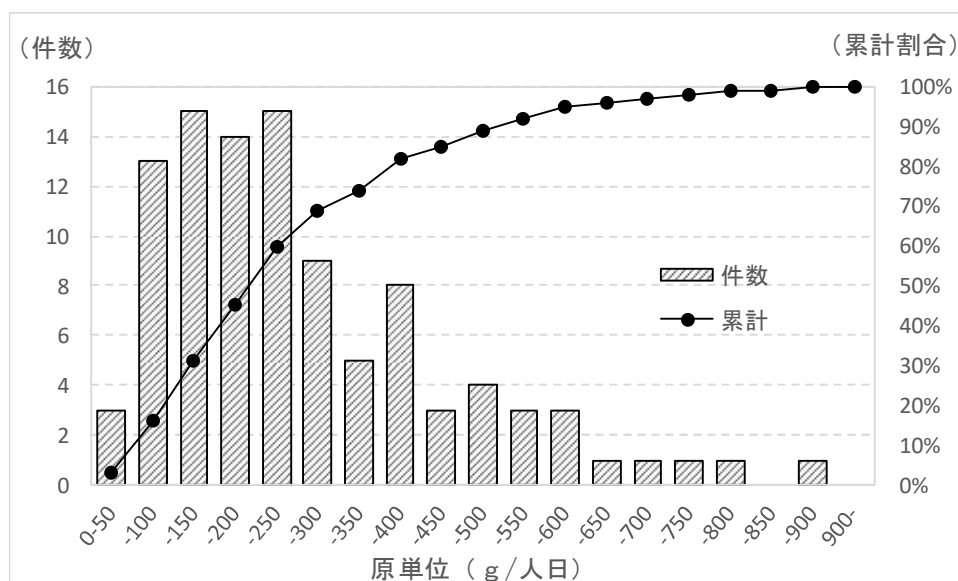


図２-６ 排出原単位の分布（可燃ごみ）

② 不燃ごみ

不燃ごみの排出原単位の分布を表2-7及び図2-7に示す。

5 g/人日以上 10 g/人日未満の排出原単位が最も多かった。また、20 g/人日未満の件数が全体の 78.0%を占めていた。一方で、100 g/人日以上の多量排出世帯が2件あり、そのうち最大は 228.2 g/人日であった。

表2-7 排出原単位の分布（不燃ごみ）

原単位(g/人日)	件数	割合	累計件数(件)	累計
0 ～ 5	14	14.0%	14	14.0%
5 ～ 10	39	39.0%	53	53.0%
10 ～ 15	15	15.0%	68	68.0%
15 ～ 20	10	10.0%	78	78.0%
20 ～ 25	5	5.0%	83	83.0%
25 ～ 30	7	7.0%	90	90.0%
30 ～ 35	3	3.0%	93	93.0%
35 ～ 40	2	2.0%	95	95.0%
40 ～ 45	0	0.0%	95	95.0%
45 ～ 50	1	1.0%	96	96.0%
50 ～ 55	1	1.0%	97	97.0%
55 ～ 60	1	1.0%	98	98.0%
60 ～ 65	0	0.0%	98	98.0%
65 ～ 70	0	0.0%	98	98.0%
70 ～ 75	0	0.0%	98	98.0%
75 ～ 80	0	0.0%	98	98.0%
80 ～ 85	0	0.0%	98	98.0%
85 ～ 90	0	0.0%	98	98.0%
90 ～ 95	0	0.0%	98	98.0%
95 ～ 100	0	0.0%	98	98.0%
100 以上	2	2.0%	100	100.0%

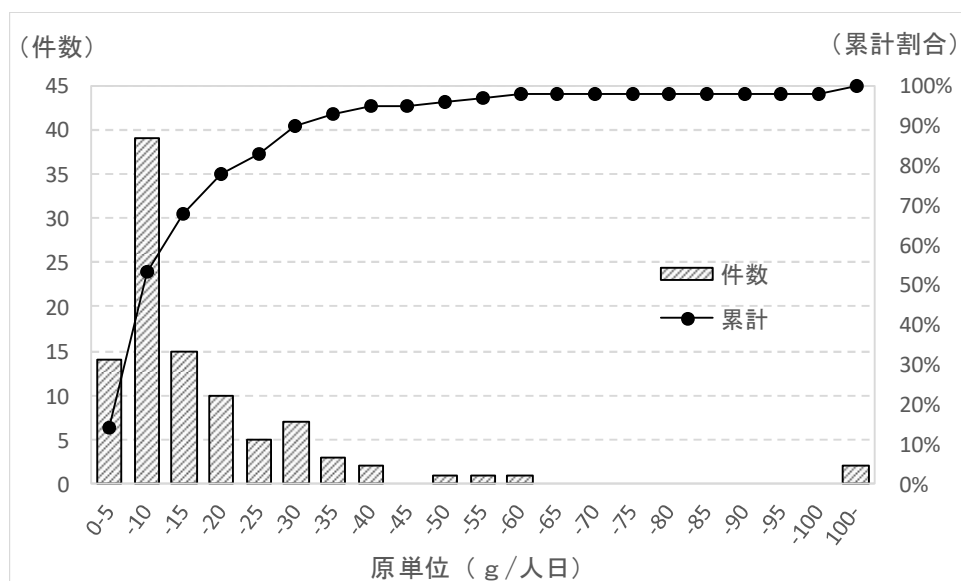


図2-7 排出原単位の分布（不燃ごみ）

(3) 分類項目ごとの排出原単位

① 大分類項目における排出原単位

大分類項目における排出原単位を表 2-8 及び図 2-8 に示す。

可燃ごみは、厨芥類が 35.78%を占めており、多いものから厨芥類、紙類、プラスチック類の 3 項目で全体の 76.65%となっている。

不燃ごみは、多いものから金属類、びん・ガラス、陶磁器・石類で全体の 76.48%を占めている。

表 2-8 排出原単位（大分類）

種別	分類項目（大分類）	単位：g/人日			
		可燃ごみ		不燃ごみ	
		原単位	割合	原単位	割合
可燃物	厨芥類	86.57	35.78%	0.06	0.42%
	紙類	56.17	23.19%	0.28	1.98%
	草木類	4.87	2.01%	0.03	0.25%
	繊維類	12.39	5.12%	0.04	0.32%
	紙おむつ類	25.02	10.34%	0.00	0.00%
	プラスチック類	42.82	17.68%	0.64	4.62%
	ゴム・皮革類	1.04	0.43%	0.23	1.66%
	その他可燃物	8.57	3.54%	0.00	0.00%
不燃物	陶磁器・石類	0.00	0.00%	1.22	8.79%
	金属類	1.02	0.42%	6.95	50.07%
	びん・ガラス	0.36	0.15%	2.44	17.62%
	土砂・残土・灰	0.00	0.00%	0.00	0.00%
	蛍光管	0.00	0.00%	0.05	0.36%
	乾電池・マンガン電池・ボタン電池	0.00	0.00%	0.65	4.69%
	体温計（電子体温計を除く）・温度計	0.00	0.00%	0.00	0.03%
	その他不燃物	0.36	0.15%	1.08	7.80%
外袋	ごみ袋	2.88	1.19%	0.19	1.39%

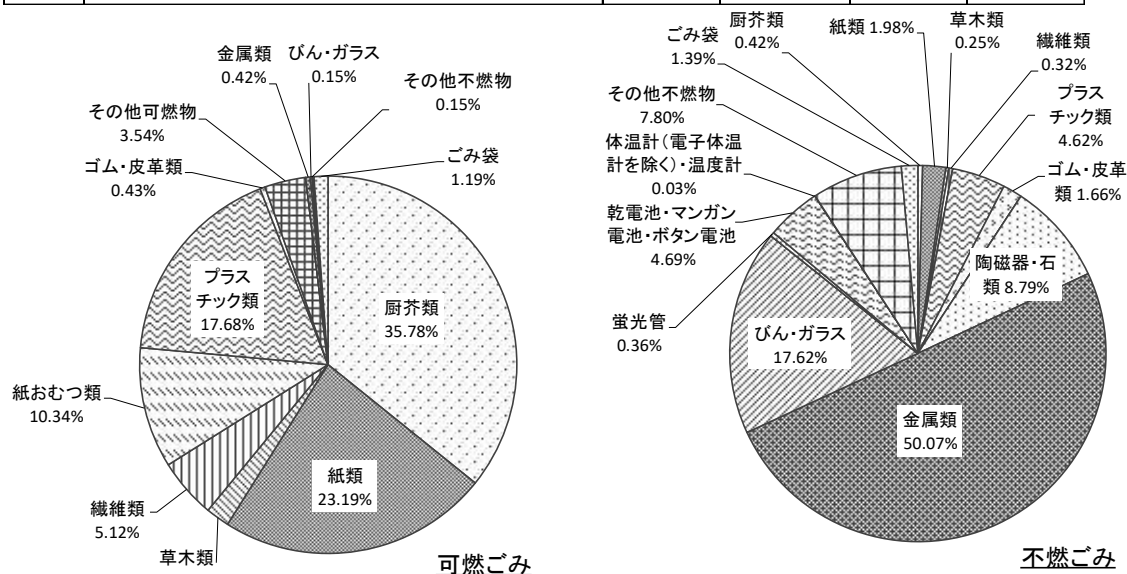


図 2-8 排出原単位（大分類）

② 細分類項目における排出原単位

細分類における可燃ごみと不燃ごみの排出原単位を表2-9に示す。

表2-9 細分類項目の排出原単位

種別	分 類 項 目			可燃ごみ	可燃ごみ		不燃ごみ	不燃ごみ		組成割合	
	大分類	中分類	細分類	排出量(g)	原単位(g/人日)	割合	排出量(g)	原単位(g/人日)	割合		
可 燃 物	厨芥類		調理くず	50,140	60.12	24.85%	60	0.01	0.08%	23.54%	
			直接廃棄(100%残存)	4,020	4.82	1.99%	250	0.05	0.34%	1.90%	
			直接廃棄(50%以上残存)	220	0.26	0.11%	0	0.00	0.00%	0.10%	
			直接廃棄(50%未満残存)	660	0.79	0.33%	0	0.00	0.00%	0.31%	
			食べ残し	10,030	12.03	4.97%	0	0.00	0.00%	4.70%	
			その他	7,130	8.55	3.53%	0	0.00	0.00%	3.34%	
	紙類	容器包装	段ボール	1,740	2.09	0.86%	460	0.09	0.63%	0.85%	
			資源紙バック	1,700	2.04	0.84%	0	0.00	0.00%	0.79%	
			その他紙容器(リサイクル可)(雑がみ含む)	5,110	6.13	2.53%	20	0.00	0.03%	2.39%	
			その他紙容器(リサイクル不可)	3,740	4.48	1.85%	630	0.13	0.87%	1.80%	
			その他紙包装	1,860	2.23	0.92%	30	0.01	0.04%	0.87%	
		容器包装以外	新聞紙・ちらし	1,500	1.80	0.74%	170	0.03	0.23%	0.71%	
			雑誌・書籍	4,730	5.67	2.34%	0	0.00	0.00%	2.21%	
			OA用紙	940	1.13	0.47%	0	0.00	0.00%	0.44%	
			その他紙類(リサイクル可)(雑がみ含む)	7,390	8.86	3.66%	10	0.00	0.01%	3.46%	
			その他紙類(リサイクル不可)	18,130	21.74	8.98%	120	0.02	0.17%	8.50%	
	草木類			4,060	4.87	2.01%	180	0.03	0.25%	1.91%	
	繊維類			10,330	12.39	5.12%	230	0.04	0.32%	4.86%	
	紙おむつ類			20,870	25.02	10.34%	0	0.00	0.00%	9.78%	
	プラス チック類	容器包装	ペットボトル	1,080	1.29	0.53%	0	0.00	0.00%	0.50%	
			その他のボトル	3,120	3.74	1.55%	1,200	0.23	1.65%	1.56%	
			チューブ類	530	0.64	0.26%	40	0.01	0.06%	0.25%	
			資源発泡トレイ	450	0.54	0.22%	0	0.00	0.00%	0.21%	
			その他の発泡トレイ	780	0.94	0.39%	0	0.00	0.00%	0.37%	
			その他プラ容器	9,780	11.73	4.84%	200	0.04	0.28%	4.59%	
			その他プラ包装	13,480	16.16	6.68%	100	0.02	0.14%	6.33%	
			レジ袋(ごみとして出された袋)	2,680	3.21	1.33%	180	0.03	0.25%	1.27%	
		容器包装以外	シングルユースプラスチック	350	0.42	0.17%	0	0.00	0.00%	0.16%	
			その他	3,460	4.15	1.71%	1,630	0.31	2.24%	1.74%	
	ゴム・皮革類			870	1.04	0.43%	1,210	0.23	1.66%	0.50%	
	その他不燃物			7,150	8.57	3.54%	0	0.00	0.00%	3.35%	
不 燃 物	陶磁器・石類			0	0.00	0.00%	6,390	1.22	8.79%	0.48%	
	金属類	容器包装	アルミ缶	40	0.05	0.02%	280	0.05	0.39%	0.04%	
			スチール缶	310	0.37	0.15%	2,330	0.44	3.20%	0.32%	
			その他容器類	120	0.14	0.06%	4,210	0.80	5.79%	0.37%	
		容器包装以外	その他金属(リサイクル可)	0	0.00	0.00%	7,940	1.51	10.92%	0.59%	
			その他金属(リサイクル不可)	380	0.46	0.19%	4,850	0.95	6.67%	0.54%	
			小型家電	0	0.00	0.00%	16,810	3.20	23.10%	1.25%	
	びん・ ガラス	容器包装	生きびん	0	0.00	0.00%	0	0.00	0.00%	0.00%	
			無色雑びん	200	0.24	0.10%	5,090	0.97	7.00%	0.47%	
			茶色雑びん	100	0.12	0.05%	580	0.11	0.80%	0.09%	
			その他色雑びん	0	0.00	0.00%	160	0.03	0.22%	0.01%	
			資源回収不適な雑びん	0	0.00	0.00%	3,390	0.65	4.66%	0.25%	
		容器包装以外		0	0.00	0.00%	3,590	0.68	4.94%	0.27%	
	土砂・残土・灰			0	0.00	0.00%	0	0.00	0.00%	0.00%	
	蛍光管			0	0.00	0.00%	260	0.05	0.36%	0.02%	
	乾電池・マンガン電池・ボタン電池			0	0.00	0.00%	3,410	0.65	4.69%	0.25%	
	体温計(電子体温計を除く)・温度計			0	0.00	0.00%	20	0.00	0.03%	0.00%	
	その他不燃物			300	0.36	0.15%	5,670	1.08	7.80%	0.56%	
	外 袋	ごみ袋	容器包装	レジ袋	1,400	1.68	0.69%	890	0.17	1.22%	0.72%
			容器包装以外	プラスチック袋	1,000	1.20	0.50%	120	0.02	0.17%	0.48%
合計				201,880	242.07	100.00%	72,710	13.86	100.00%	100.00%	

第3章 資源化可能物等の解析

1 可燃ごみの解析

本調査結果より、可燃ごみにおける分別不適正率及び資源化可能率を解析した。解析結果を表3-1に示す。

分別不適正率は14.22%、資源化可能率は13.82%であった。

分別が不適正なもののうち、資源化が不可なもの（不燃物）では、その他金属（リサイクル不可）が最も多く含まれていた。

資源化が可なものでは、その他紙類（リサイクル可）が最も多く3.66%、次いでその他紙容器（リサイクル可）で2.53%であった。

表 3-1 資源化可能物及び分別不適正の割合（可燃ごみ中）

分 類 項 目				No.	組 成 割 合	資 源 化 可 能 率	分 別 不 適 正 率	
種別	大分類	中分類	細分類					
可 燃 物	厨芥類		調理くず	1	24.85%			
			直接廃棄(100%残存)	2	1.99%			
			直接廃棄(50%以上残存)	3	0.11%			
			直接廃棄(50%未満残存)	4	0.33%			
			食べ残し	5	4.97%			
			その他	6	3.53%			
	紙類	容器包装	段ボール	7	0.86%	0.86%	0.86%	
			資源紙パック	8	0.84%	0.84%	0.84%	
			その他紙容器(リサイクル可)(雑がみ含む)	9	2.53%	2.53%	2.53%	
			その他紙容器(リサイクル不可)	10	1.85%			
			その他紙包装	11	0.92%	0.92%	0.92%	
		容器包装以外	新聞紙・ちらし	12	0.74%	0.74%	0.74%	
			雑誌・書籍	13	2.34%	2.34%	2.34%	
			OA用紙	14	0.47%	0.47%	0.47%	
			その他紙類(リサイクル可)(雑がみ含む)	15	3.66%	3.66%	3.66%	
			その他紙類(リサイクル不可)	16	8.98%			
	草木類			17	2.01%			
	繊維類			18	5.12%			
	紙おむつ類			19	10.34%			
	プラスチック類	容器包装	ペットボトル	20	0.53%	0.53%	0.53%	
			その他のボトル	21	1.55%			
			チューブ類	22	0.26%			
			資源発泡トレイ	23	0.22%	0.22%	0.22%	
			その他の発泡トレイ	24	0.39%	0.39%	0.39%	
			その他プラ容器	25	4.84%			
			その他プラ包装	26	6.68%			
			レジ袋(ごみとして出された袋)	27	1.33%			
		容器包装以外	シングルユースプラスチック	28	0.17%			
			その他	29	1.71%			
	ゴム・皮革類			30	0.43%			
	その他可燃物			31	3.54%			
不 燃 物	陶磁器・石類			32	0.00%			
	金属類	容器包装	アルミ缶	33	0.02%	0.02%	0.02%	
			スチール缶	34	0.15%	0.15%	0.15%	
			その他容器類	35	0.06%		0.06%	
		容器包装以外	その他金属(リサイクル可)	36	0.00%	0.00%	0.00%	
			その他金属(リサイクル不可)	37	0.19%		0.19%	
			小型家電	38	0.00%	0.00%	0.00%	
	びん・ガラス	容器包装	生きびん	39	0.00%	0.00%	0.00%	
			無色雑びん	40	0.10%	0.10%	0.10%	
			茶色雑びん	41	0.05%	0.05%	0.05%	
			その他色雑びん	42	0.00%	0.00%	0.00%	
			資源回収不適な雑びん	43	0.00%		0.00%	
		容器包装以外	44	0.00%		0.00%		
	土砂・残土・灰			45	0.00%		0.00%	
	蛍光管			46	0.00%		0.00%	
	乾電池・マンガン電池・ボタン電池			47	0.00%		0.00%	
	体温計(電子体温計を除く)・温度計			48	0.00%		0.00%	
	その他不燃物			49	0.15%		0.15%	
	外 袋	ごみ袋	容器包装	レジ袋	50	0.69%		
			容器包装以外	プラスチック袋	51	0.50%		
合 計					100.00%	13.82%	14.22%	

2 不燃ごみの解析

本調査結果より、不燃ごみにおける分別不適正率及び資源化可能率を解析した。解析結果を表3-2に示す。

分別不適正率は34.15%、資源化可能率は25.84%であった。

分別が不適正なもののうち、資源化が不可なもの（可燃物）では、容器包装以外のプラスチック類が多く含まれていた。

資源化が可能なものでは、金属類の小型家電が最も多く9.10%、次いでびん・ガラス類の無色雑びんで7.00%であった。

表 3-2 資源化可能物及び分別不適正の割合（不燃ごみ中）

種別	分 類 項 目			No.	組成 割合	資源化 可能率	分別不 適正率
	大分類	中分類	細分類				
可 燃 物	厨芥類		調理くず	1	0.08%		0.08%
			直接廃棄(100%残存)	2	0.34%		0.34%
			直接廃棄(50%以上残存)	3	0.00%		0.00%
			直接廃棄(50%未満残存)	4	0.00%		0.00%
			食べ残し	5	0.00%		0.00%
			その他	6	0.00%		0.00%
	紙類	容器包装	段ボール	7	0.63%	0.63%	0.63%
			資源紙パック	8	0.00%	0.00%	0.00%
			その他紙容器(リサイクル可)(雑がみ含む)	9	0.03%	0.03%	0.03%
			その他紙容器(リサイクル不可)	10	0.87%		0.87%
			その他紙包装	11	0.04%	0.04%	0.04%
		容器包装以外	新聞紙・ちらし	12	0.23%	0.23%	0.23%
			雑誌・書籍	13	0.00%	0.00%	0.00%
			OA用紙	14	0.00%	0.00%	0.00%
			その他紙類(リサイクル可)(雑がみ含む)	15	0.01%	0.01%	0.01%
			その他紙類(リサイクル不可)	16	0.17%		0.17%
	草木類			17	0.25%		0.25%
	繊維類			18	0.32%		0.32%
	紙おむつ類			19	0.00%		0.00%
	プラスチック類	容器包装	ペットボトル	20	0.00%	0.00%	0.00%
			その他のボトル	21	1.65%		1.65%
			チューブ類	22	0.06%		0.06%
			資源発泡トレイ	23	0.00%	0.00%	0.00%
			その他の発泡トレイ	24	0.00%	0.00%	0.00%
			その他プラ容器	25	0.28%		0.28%
			その他プラ包装	26	0.14%		0.14%
			レジ袋(ごみとして出された袋)	27	0.25%		0.25%
		容器包装以外	シングルユースプラスチック	28	0.00%		0.00%
			その他	29	2.24%		2.24%
	ゴム・皮革類			30	1.66%		1.66%
	その他可燃物			31	0.00%		0.00%
不 燃 物	陶磁器・石類			32	8.79%		
	金属類	容器包装	アルミ缶	33	0.39%	0.39%	0.39%
			スチール缶	34	3.20%	3.20%	3.20%
			その他容器類	35	5.79%		
		容器包装以外	その他金属(リサイクル可)(適正分別)	36-1	6.73%		
			その他金属(リサイクル可)(不適正分別)	36-2	4.19%	4.19%	4.19%
			その他金属(リサイクル不可)	37	6.67%		
			小型家電(適正分別)	38-1	14.00%		
			小型家電(不適正分別)	38-2	9.10%	9.10%	9.10%
	びん・ガラス	容器包装	生きびん	39	0.00%	0.00%	
			無色雑びん	40	7.00%	7.00%	7.00%
			茶色雑びん	41	0.80%	0.80%	0.80%
			その他色雑びん	42	0.22%	0.22%	0.22%
			資源回収不適な雑びん	43	4.66%		
	容器包装以外			44	4.94%		
	土砂・残土・灰			45	0.00%		
	蛍光管			46	0.36%		
	乾電池・マンガン電池・ボタン電池			47	4.69%		
	体温計(電子体温計を除く)・温度計			48	0.03%		
	その他不燃物			49	7.80%		
外 袋	ごみ袋	容器包装	レジ袋	50	1.22%		
		容器包装以外	プラスチック袋	51	0.17%		
合 計					100.00%	25.84%	34.15%

※本調査では、その他金属リサイクル可と小型家電のうち、別袋で出されたものは適正分別として取り扱った。

第4章 可燃ごみの厨芥類組成の解析

1 可燃ごみの厨芥類組成の解析

調査結果（厨芥類組成）を表4-1及び図4-1に示す。調理くずが最も多く69.45%、次いで食べ残しが13.89%、その他が9.88%、直接廃棄が6.78%あった。

表4-1 厨芥類組成

大分類	中分類	排出量(g)	原単位(g/人日)	割合
厨芥類	調理くず	50,140	60.12	69.45%
	直接廃棄（100%残存）	4,020	4.82	5.57%
	直接廃棄（50%以上残存）	220	0.26	0.30%
	直接廃棄（50%未満残存）	660	0.79	0.91%
	食べ残し	10,030	12.03	13.89%
	その他	7,130	8.55	9.88%

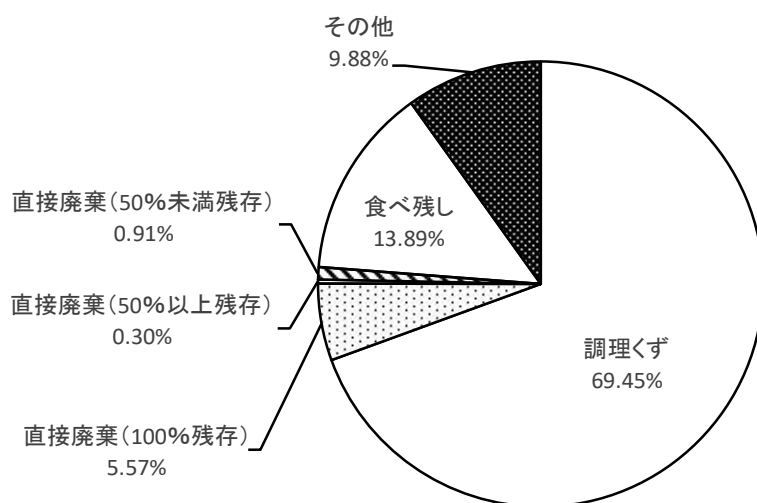


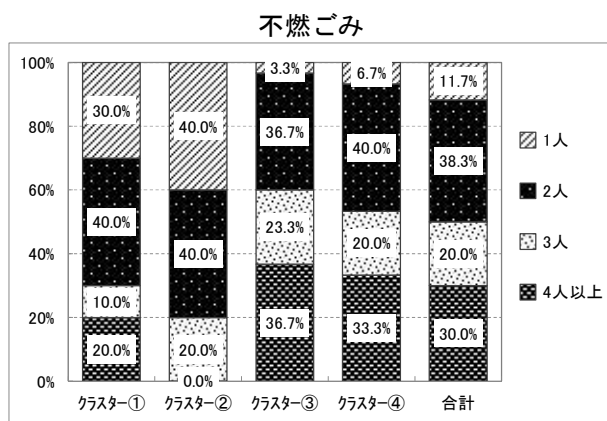
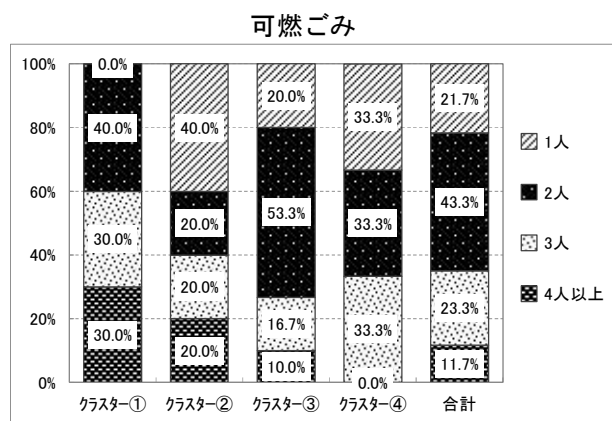
図4-1 厨芥類組成

第5章 前回までの調査との比較

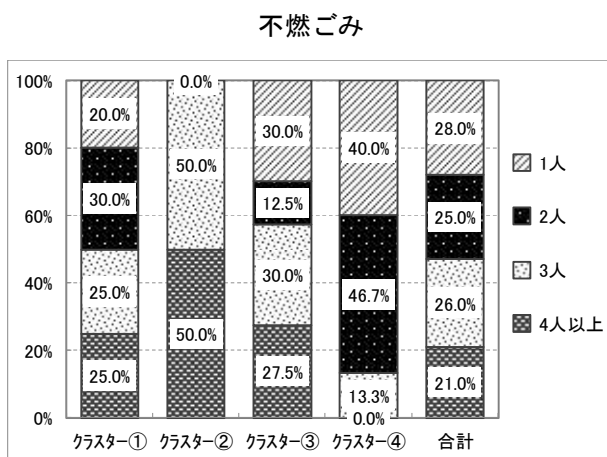
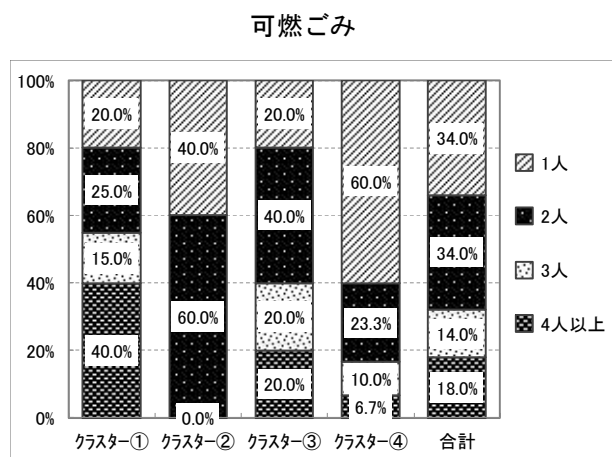
1 ヒアリング調査結果

(1) 世帯人数分布

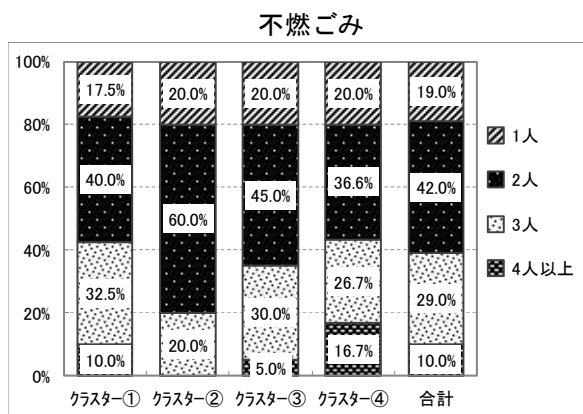
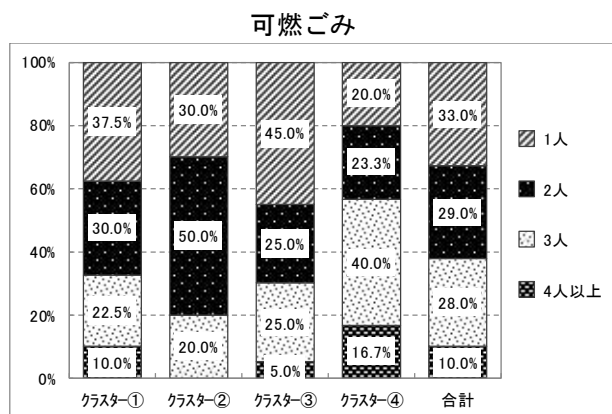
① H27 調査



② H29 調査

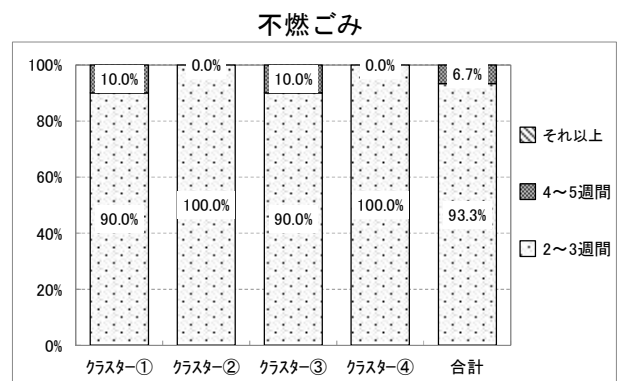
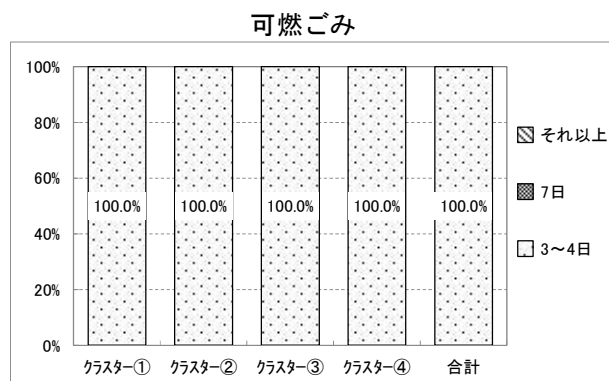


③ 本調査

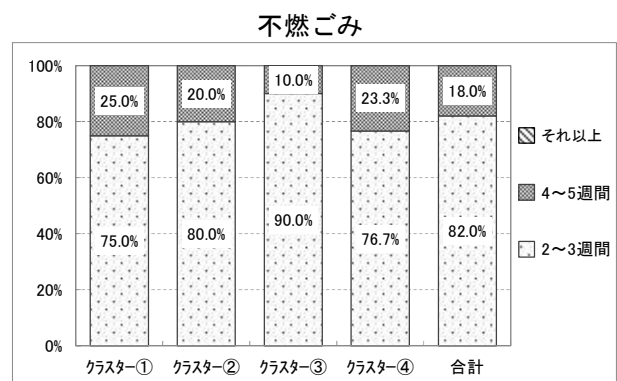
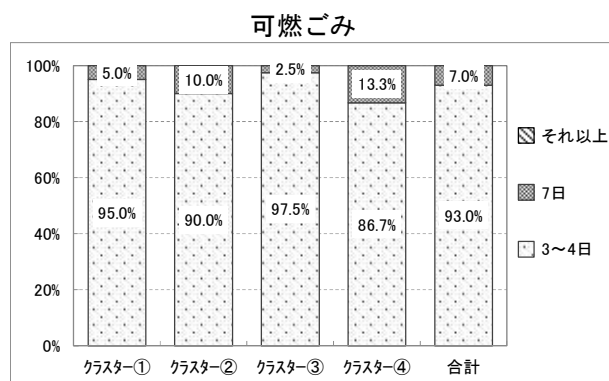


(2) 蓄積日数分布

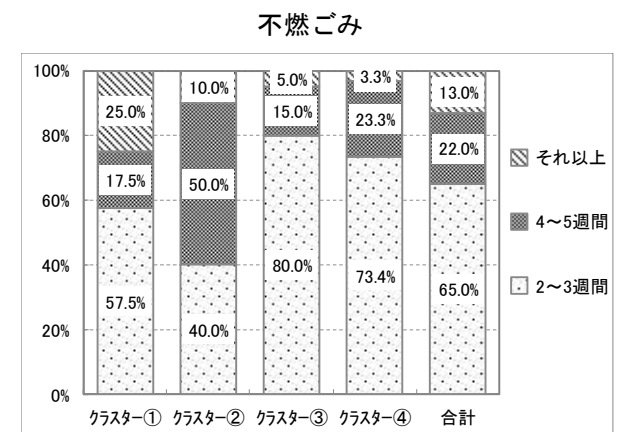
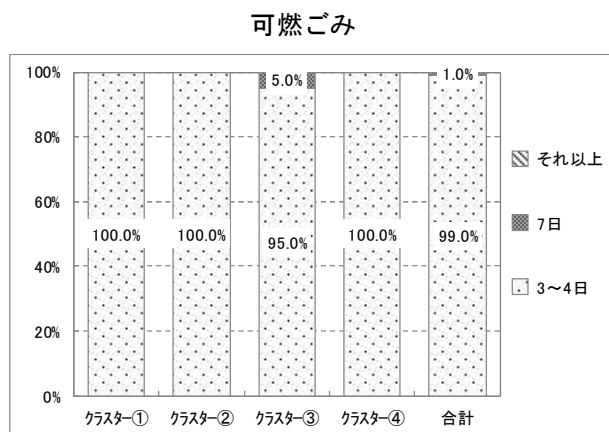
① H27 調査



② H29 調査



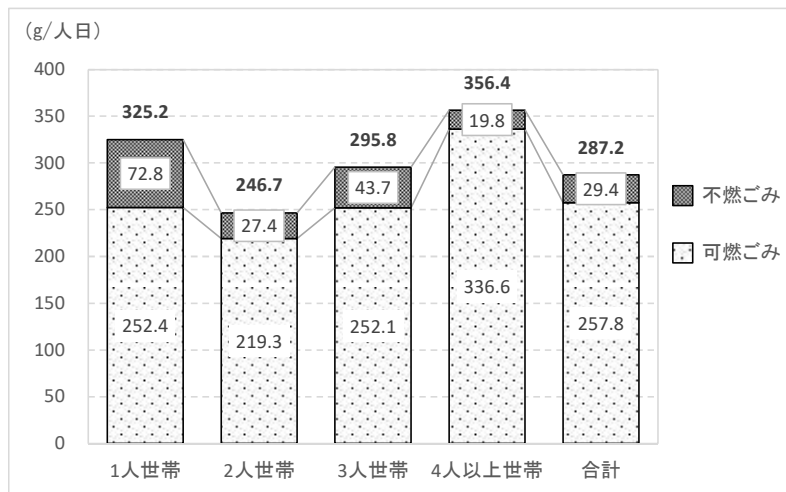
③ 本調査



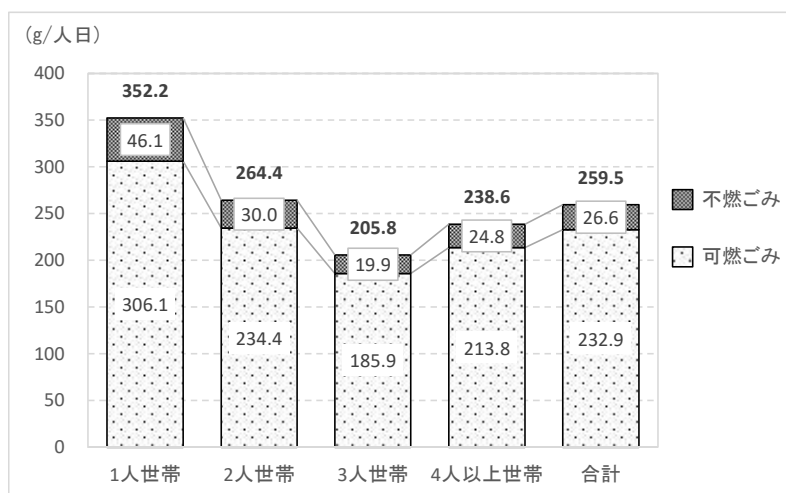
2 分析結果

(1) 世帯人数ごとの排出原単位

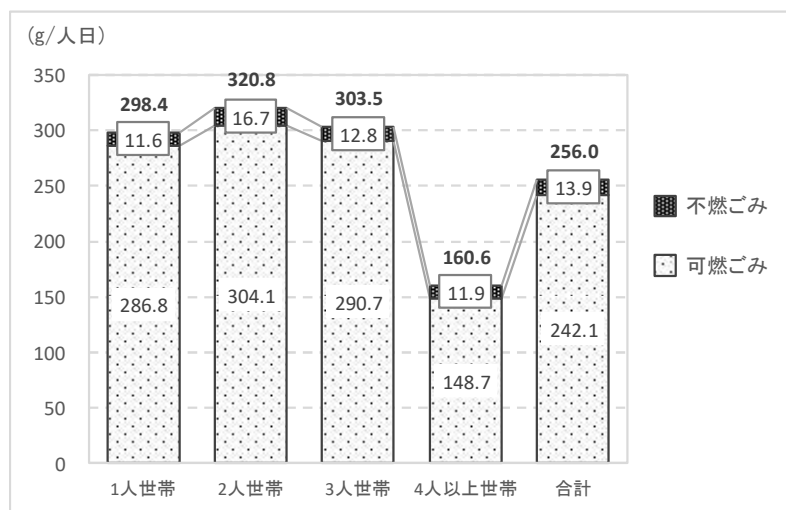
① H27 調査



② H29 調査

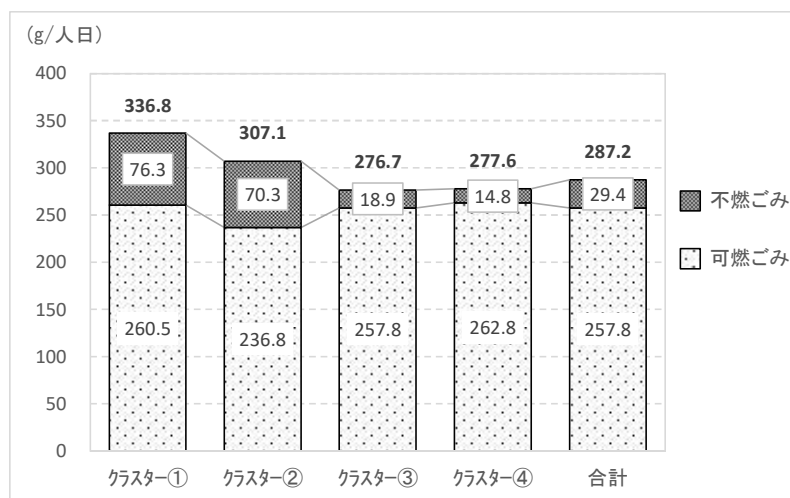


③ 本調査

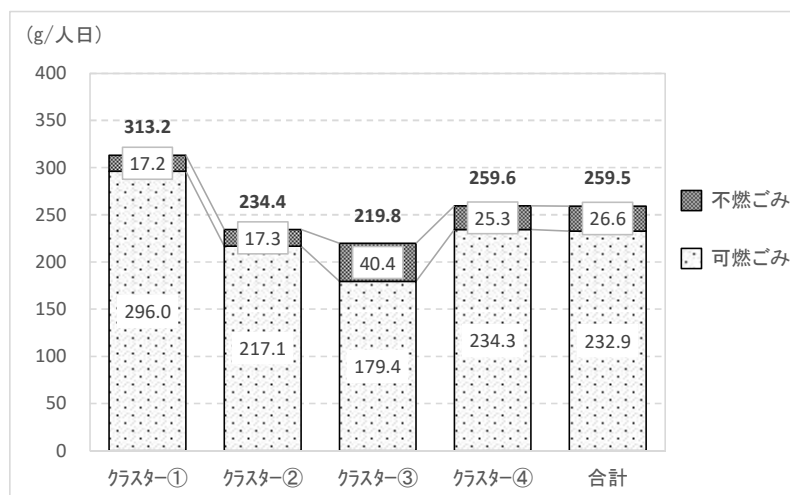


(2) クラスターごとの排出原単位

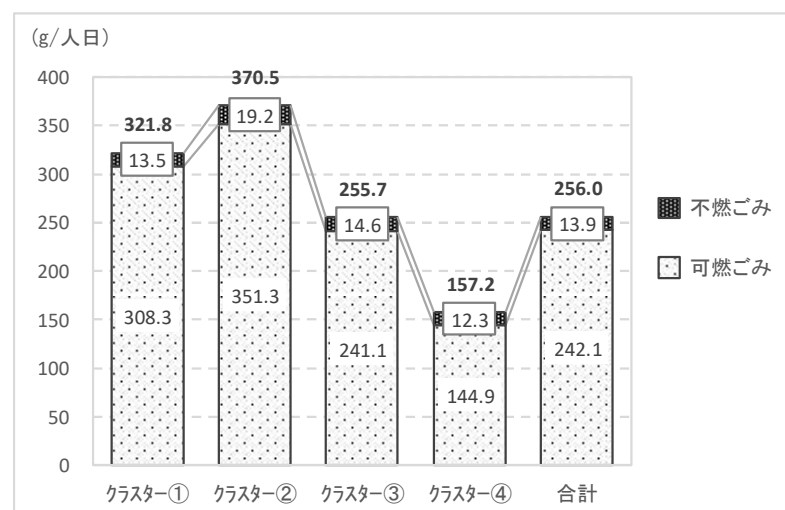
① H27 調査



② H29 調査

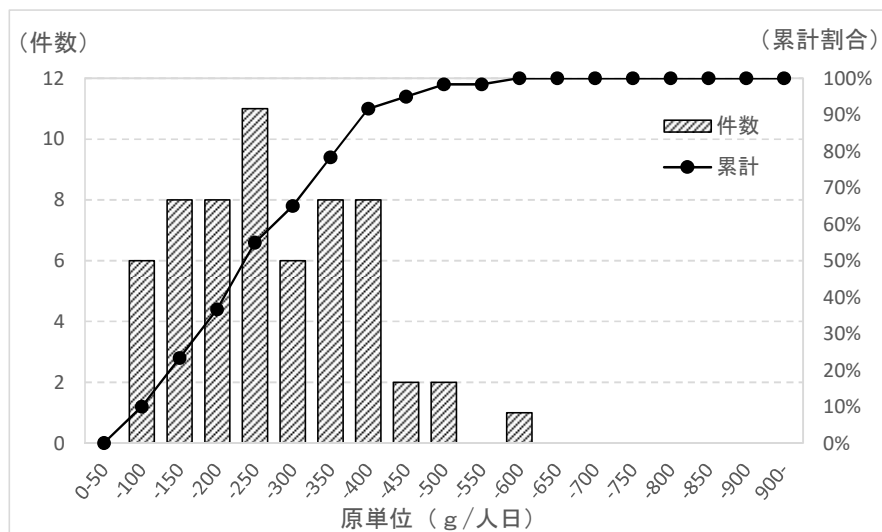


③ 本調査

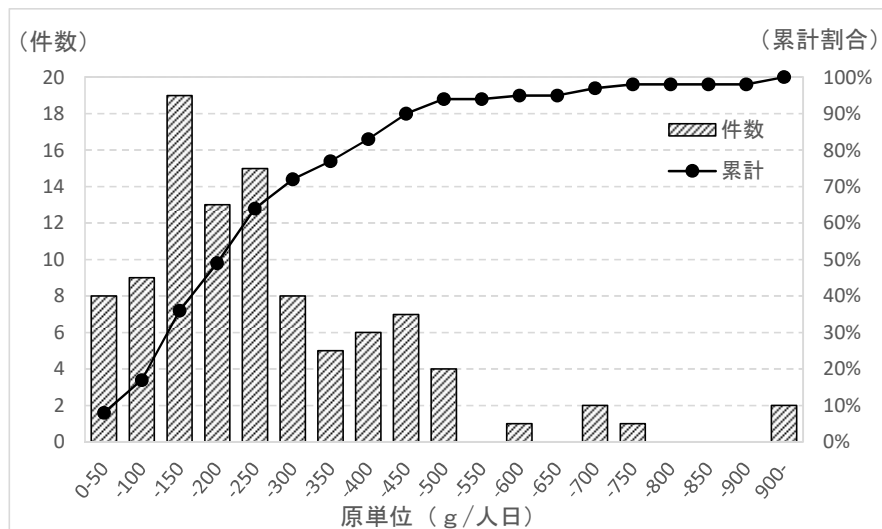


(3) 排出原単位の分布 (可燃ごみ)

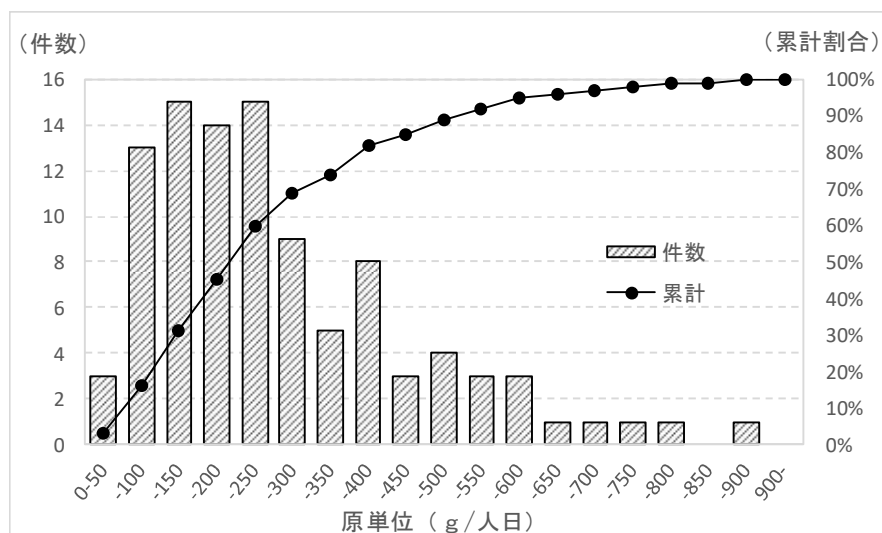
① H27 調査



② H29 調査

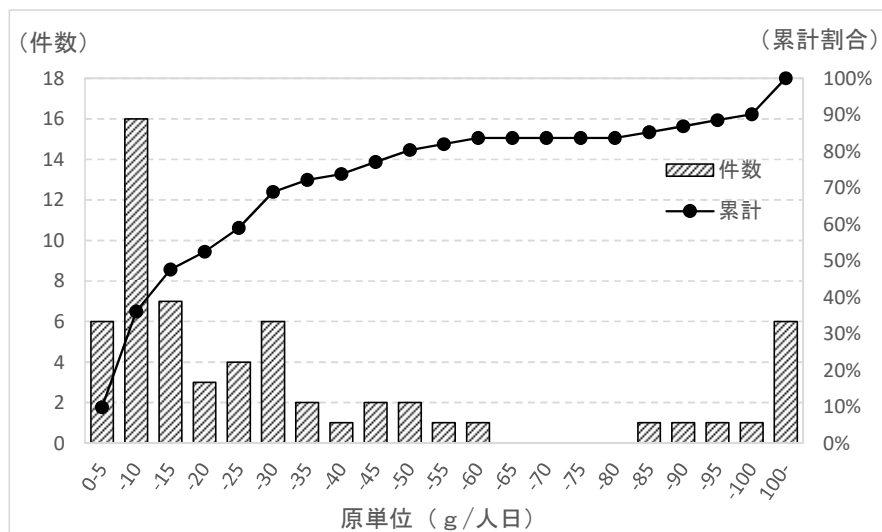


③ 本調査

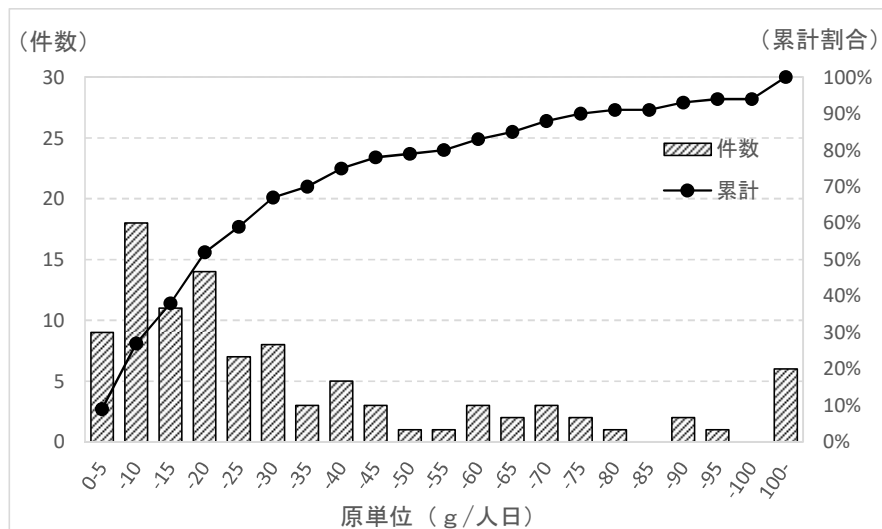


(4) 排出原単位の分布（不燃ごみ）

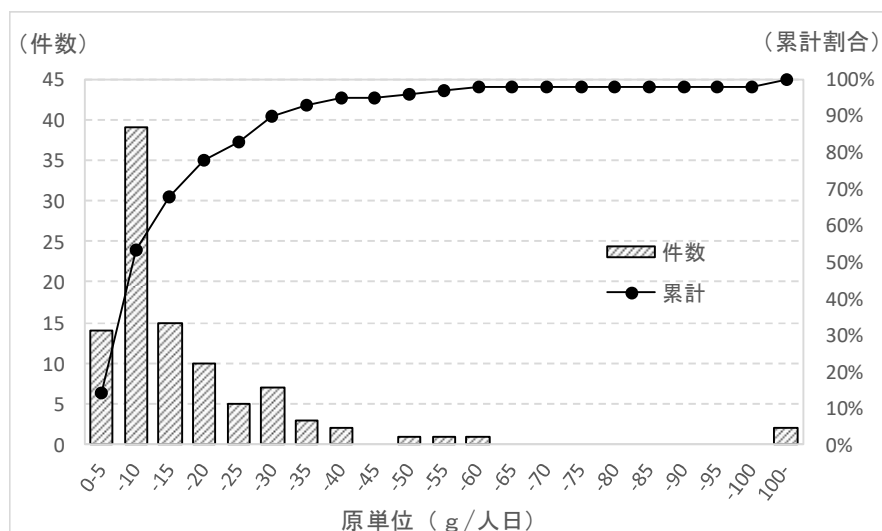
① H27 調査



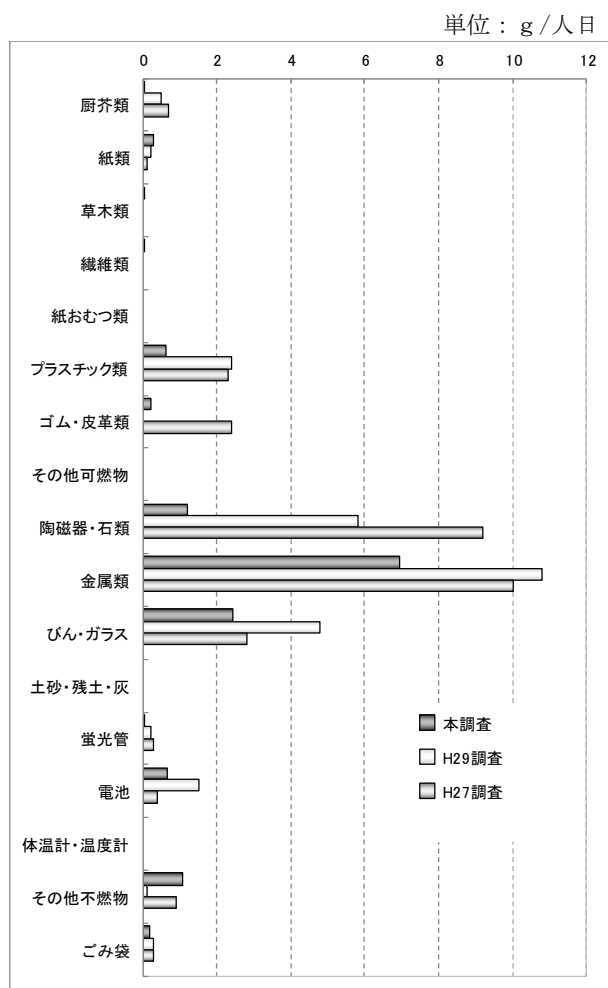
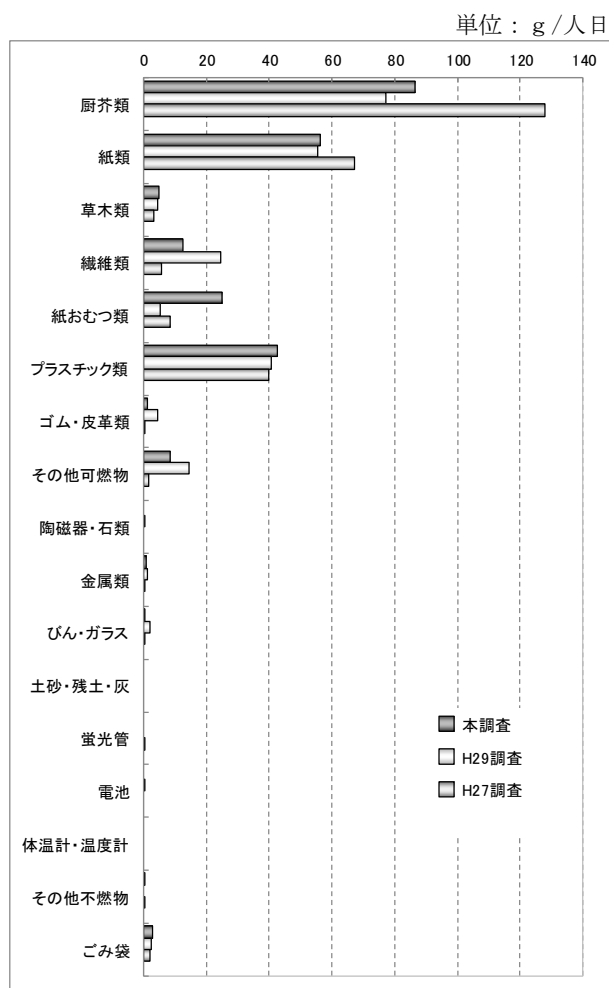
② H29 調査



③ 本調査

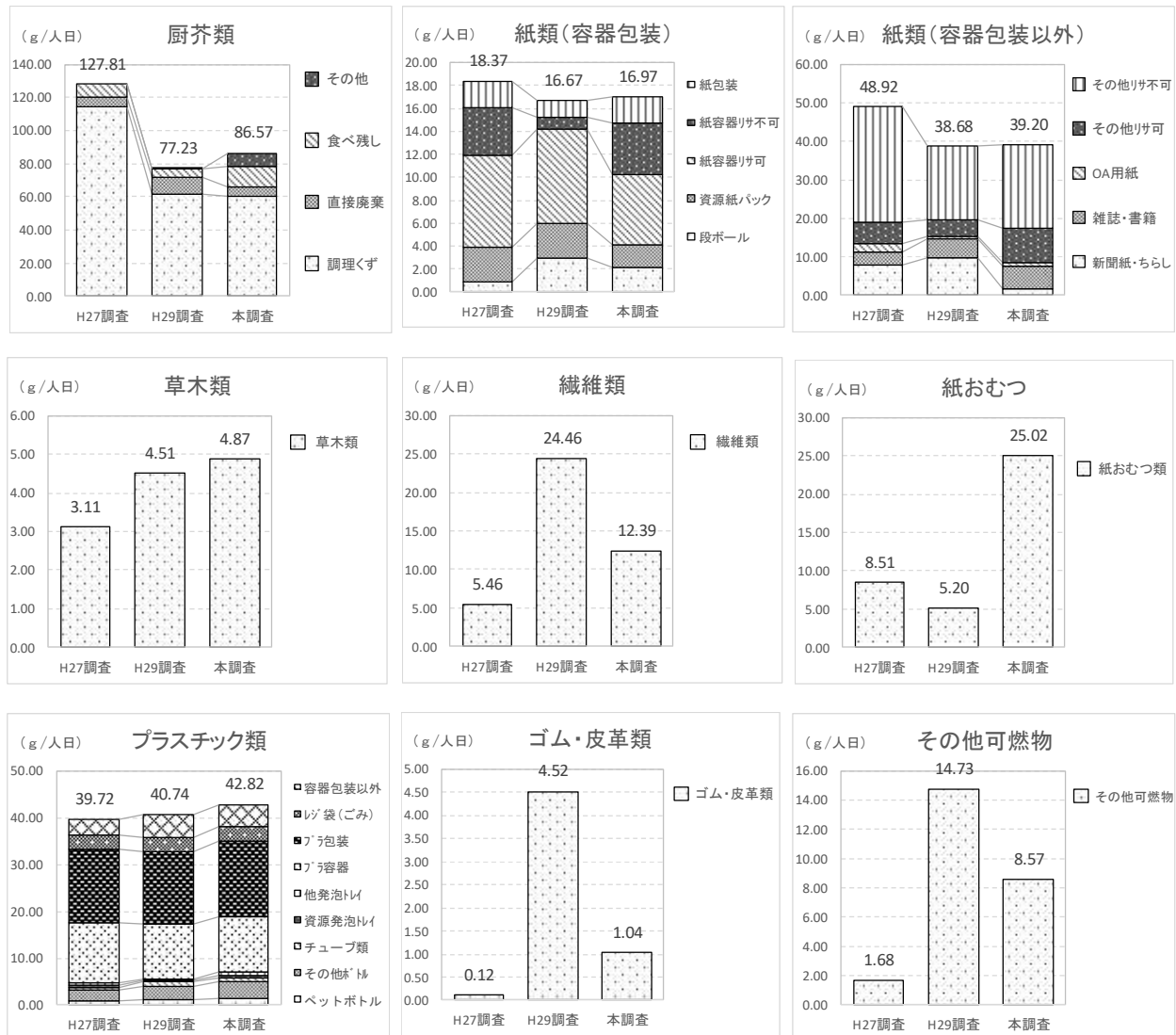


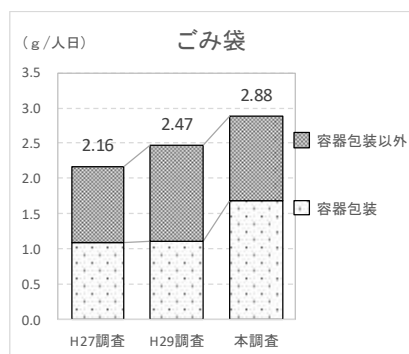
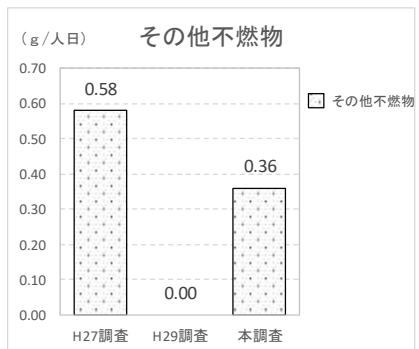
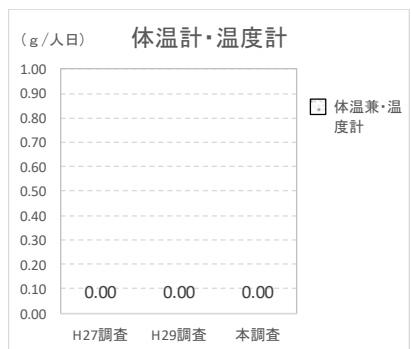
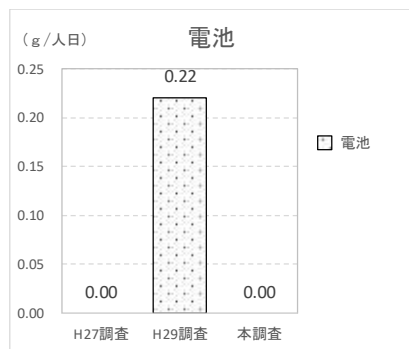
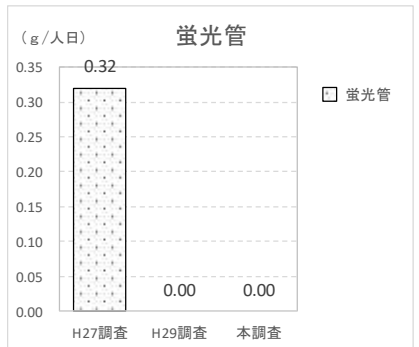
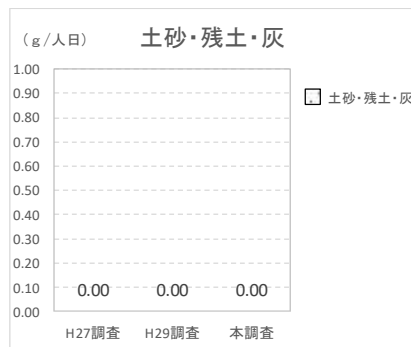
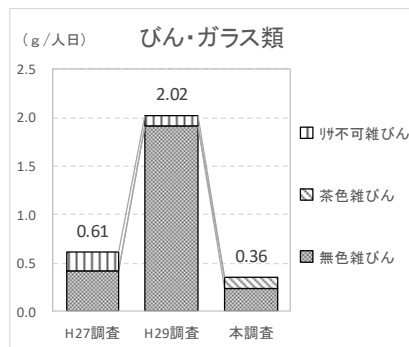
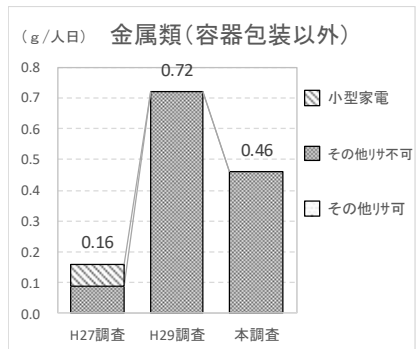
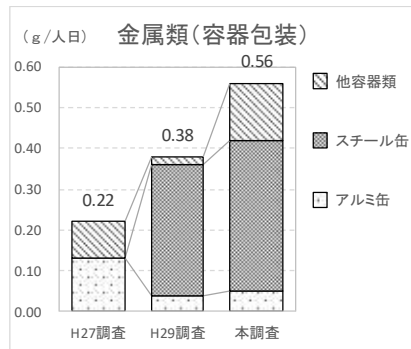
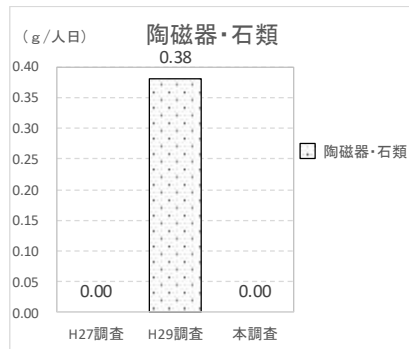
(5) 大分類項目における排出原単位



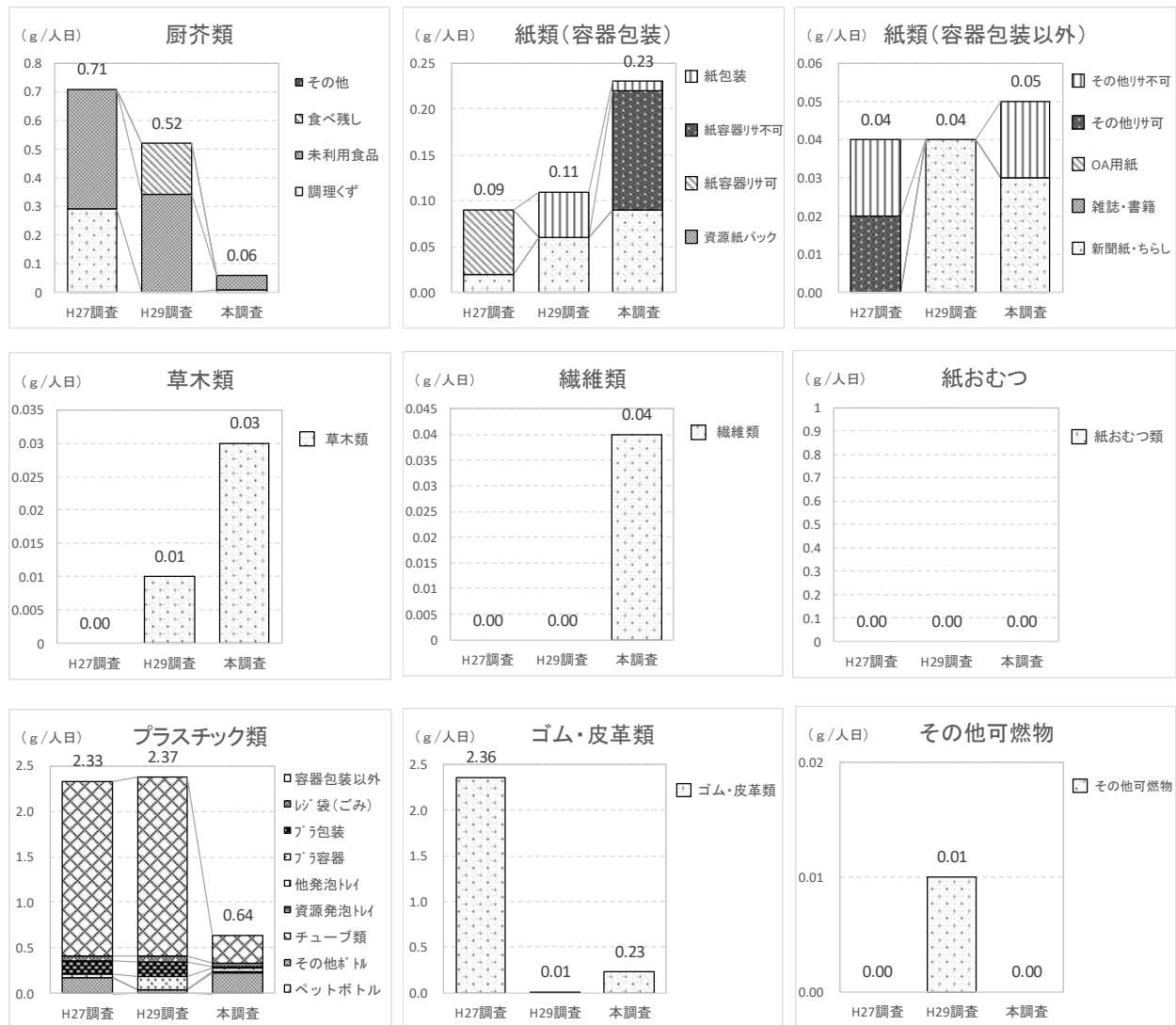
(6) 細分類項目における排出原単位

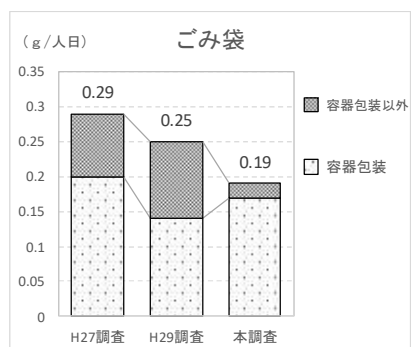
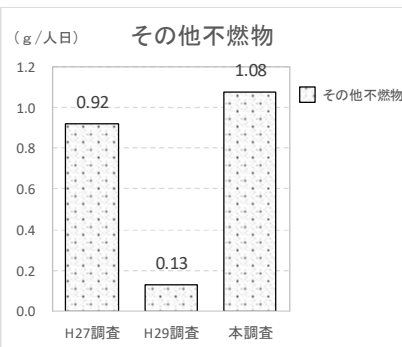
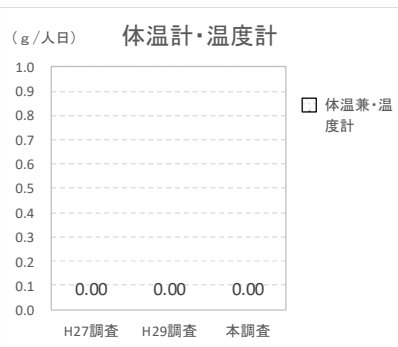
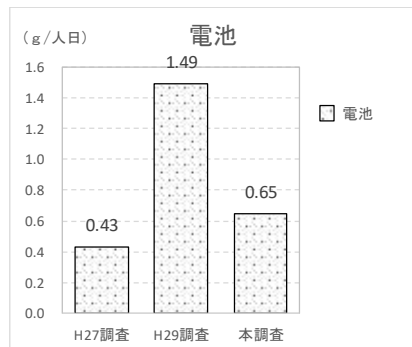
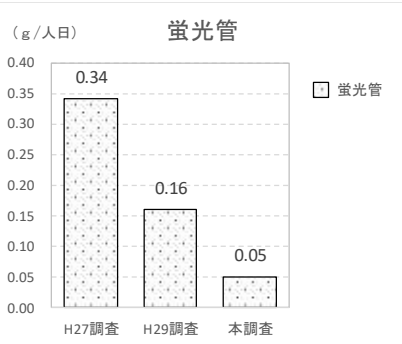
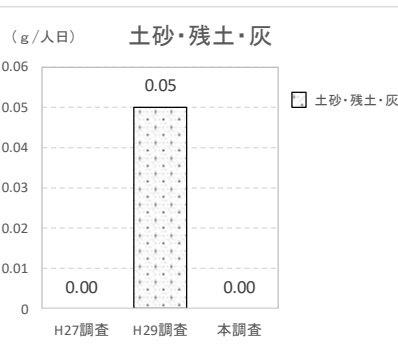
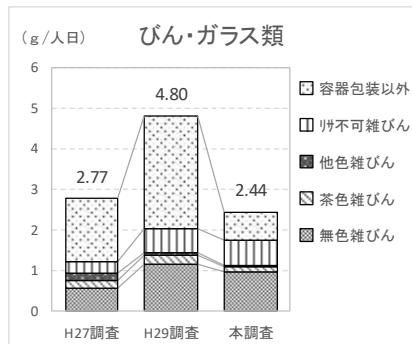
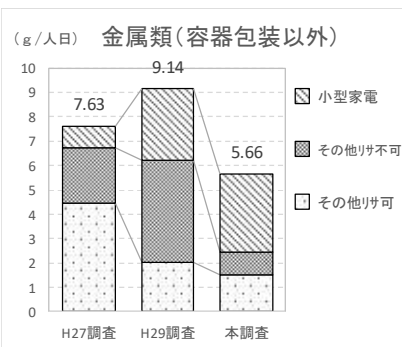
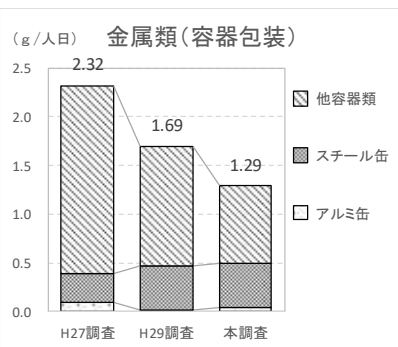
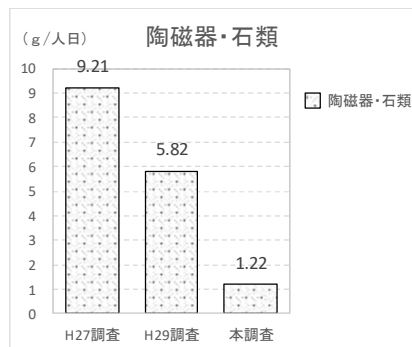
① 可燃ごみ





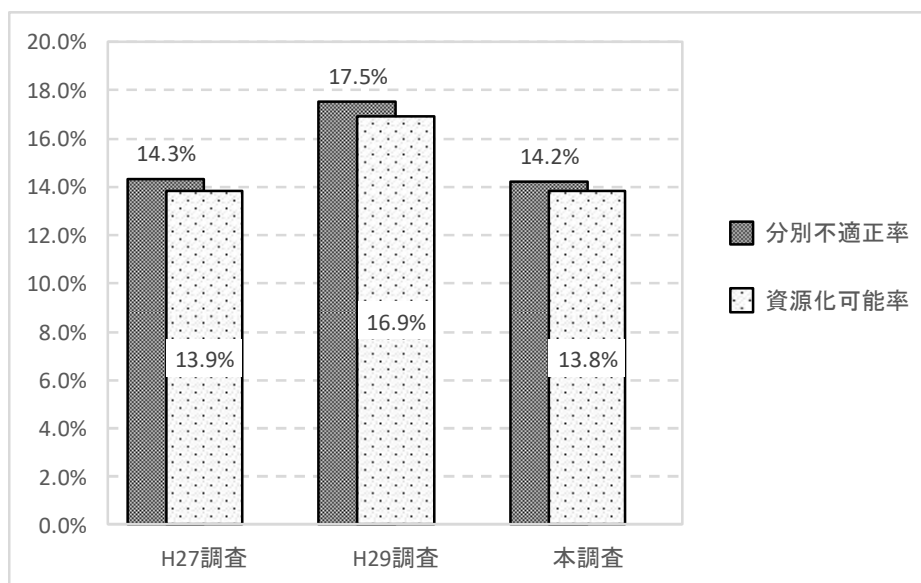
② 不燃ごみ



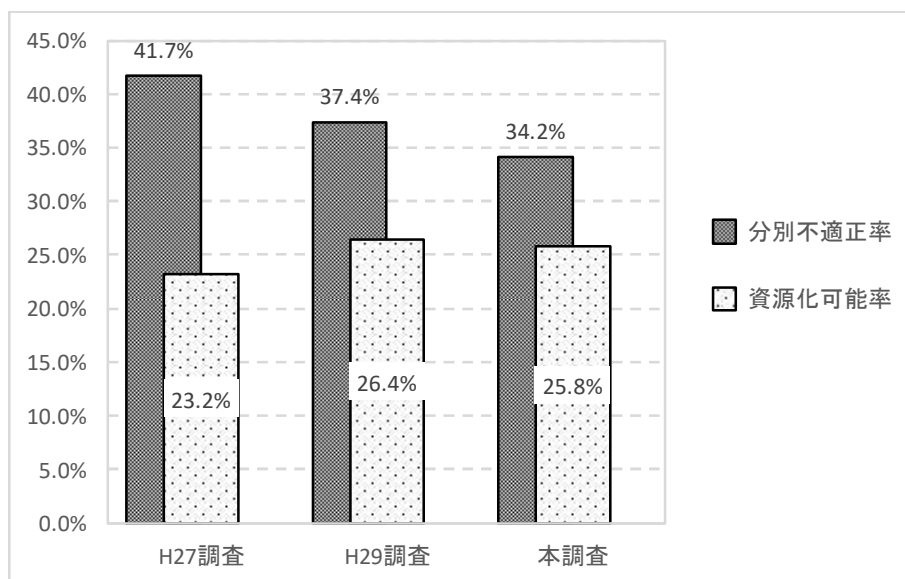


(7) 分別不適正率及び資源化可能率

① 可燃ごみ



② 不燃ごみ



※本調査では、その他金属リサイクル可と小型家電のうち、別袋で出されたものは適正分別として取り扱った。

家庭ごみ排出実態調査 報告書

令和元年 1 2 月発行

委 託：北区 生活環境部 リサイクル清掃課
〒114-8508 東京都北区王子本町 1-15-22

受 託：株式会社 杉山・栗原環境事務所
〒141-0022 東京都品川区東五反田 1-7-11-302